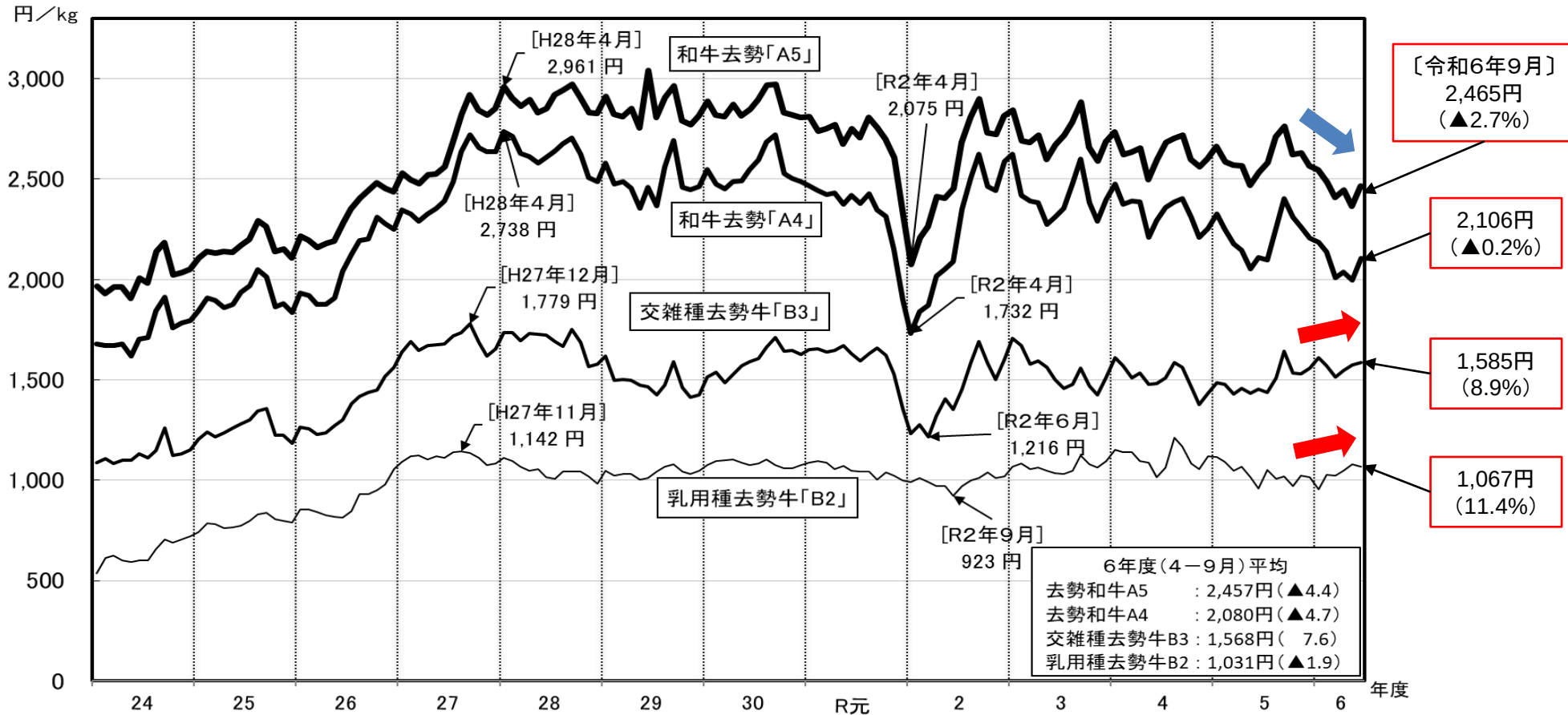


牛枝肉卸売価格

- 和牛の価格は、生産が増える中、**令和4年1月以降は物価の上昇による消費者の生活防衛意識の高まり等**の影響により、**軟調に推移**。
- 交雑種の価格は、直近では輸入牛肉が高騰する中、和牛に比べ**手頃な価格帯の牛肉**として**需要が拡大**し、**堅調に推移**。
- 乳用種の価格は、**比較的安価な国産牛肉**として**需要があり**、直近は**堅調に推移**。

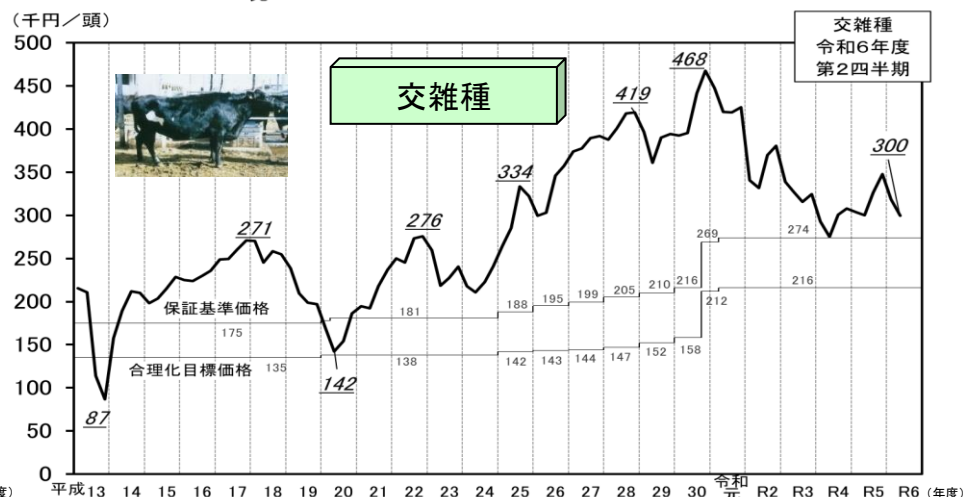
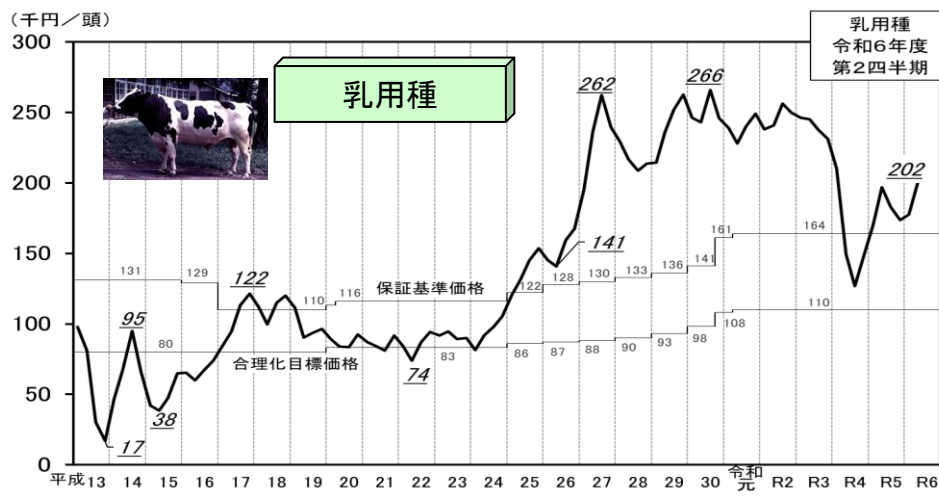
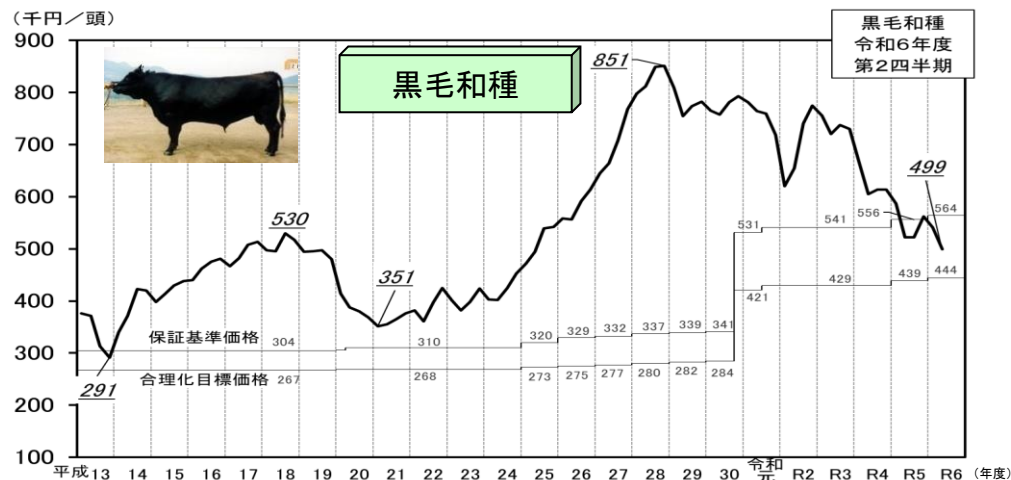


資料: 農林水産省「畜産物流通統計」

注: ()内は前年同月比。

肉用子牛価格

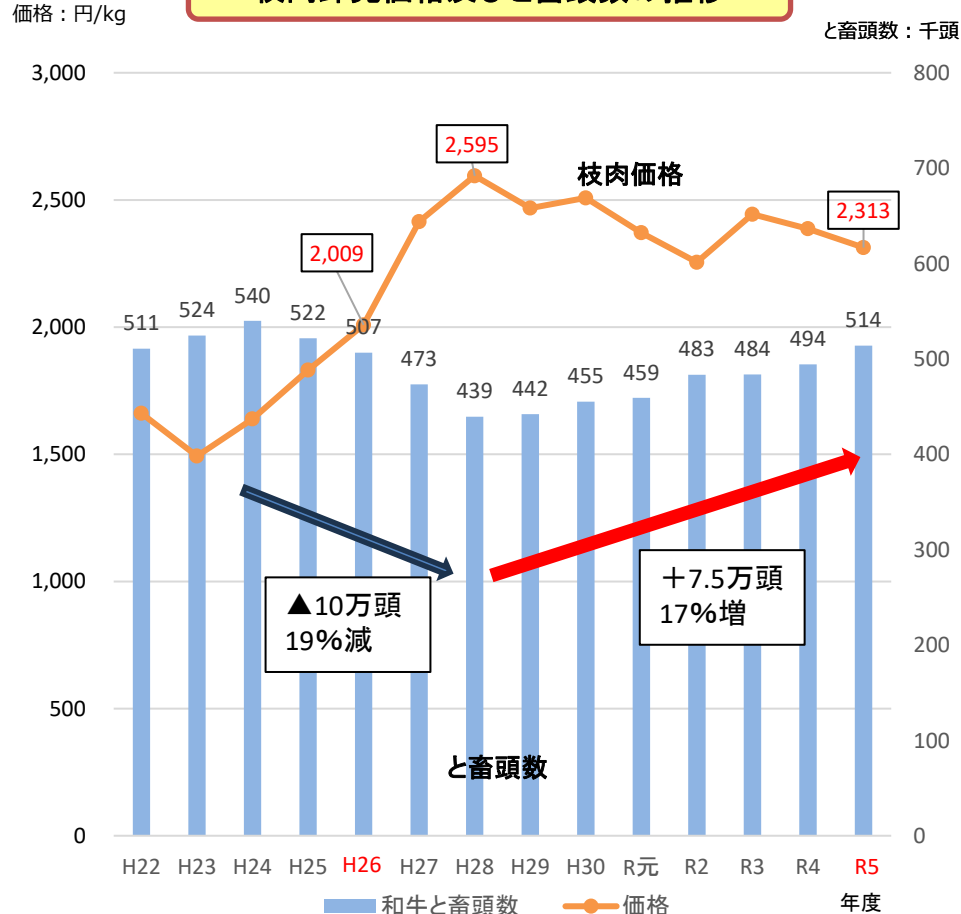
- 肉用子牛価格(黒毛和種)は、令和4年度以降下落傾向。飼料費の高止まり等を背景に、子牛への投資意欲の減退等から、直近の令和6年度第2四半期は、黒毛和種が保証基準価格を下回って推移。
- 乳用種は令和4年度に大幅に下落し、その後回復傾向。交雑種は、近年、おおよそ横ばいで推移。



和牛におけると畜頭数と枝肉価格の関係

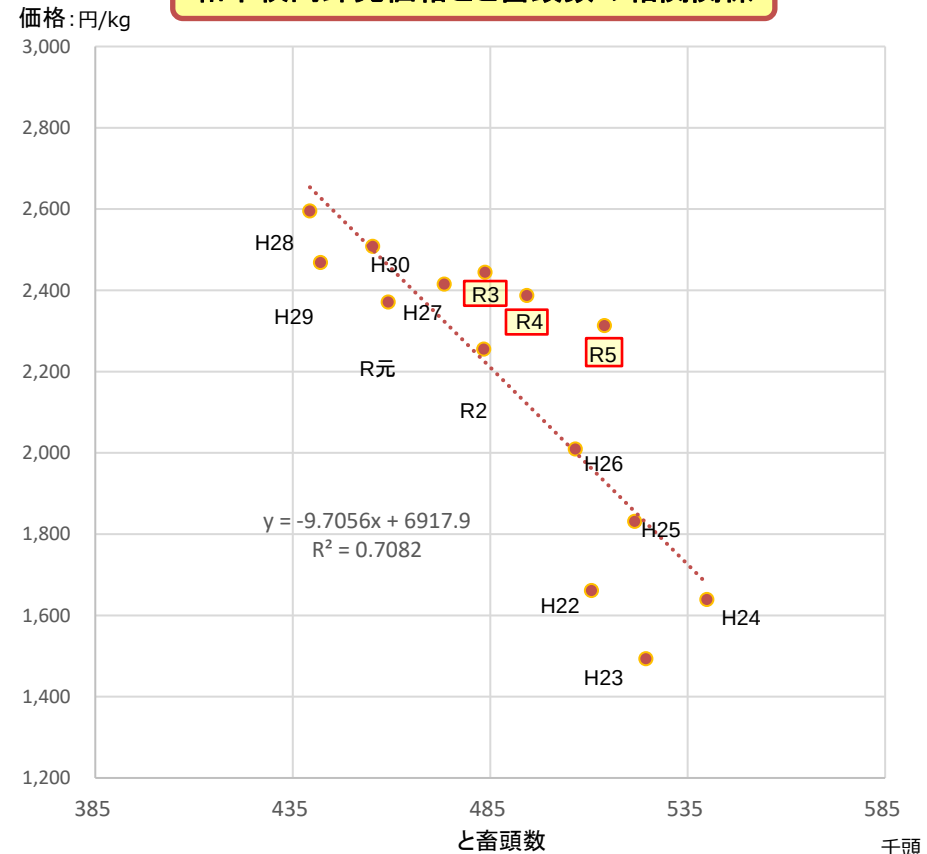
- 枝肉卸売価格とと畜頭数は負の相関関係にあり、平成28年度以降、と畜頭数が増加する中、枝肉卸売価格は弱含みで推移。
- なお、和牛肉輸出が好調であった令和3年度、4年度、5年度は傾向より高い価格を付けており、輸出の効果が一定程度みられる。

枝肉卸売価格及びと畜頭数の推移



資料：農林水産省「食肉流通統計」、卸売価格は、中央10市場の和牛全規格加重平均

和牛枝肉卸売価格とと畜頭数の相関関係

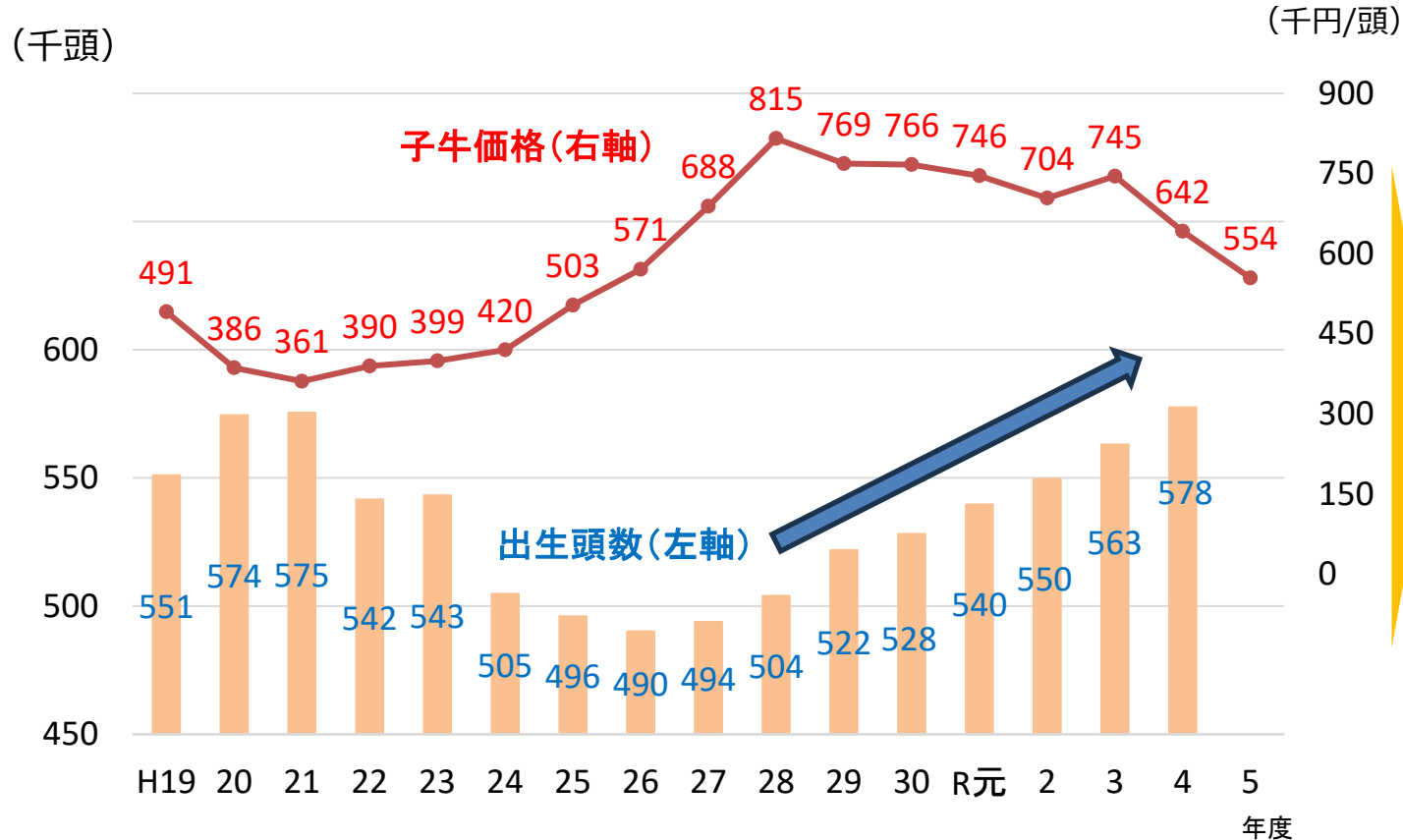


資料：農林水産省「食肉流通統計」、卸売価格は、中央10市場の和牛全規格加重平均

和牛における当面の需給見通し

- 平成28年度から令和3年度にかけての高水準な子牛価格を背景に、近年、**出生頭数が増加傾向で推移**。
- **と畜頭数の増加が見込まれる**ことから、**当面、枝肉卸売価格が弱含む**可能性。

黒毛和牛の出生頭数、子牛価格の推移



令和4年度に生まれた子牛は、令和6年下半期から順次出荷

令和7年度以降の枝肉生産量の増加

16.5万t→ 17.1万t→ ...
(R4年度) (R5年度) (R7年度)

当面、軟調な枝肉価格が続く可能性

①需給の変化への対応

[中長期的要素]

- 我が国の人口は減少
- 1人当たり消費量は緩やかに増加
- 世界のマーケットは拡大

[短期的要素]

- 物価の高騰に伴い和牛の国内需要は減少
- 輸出は、中国との解禁協議等が進まず、目標には及ばない状況
- 和牛の生産は増加傾向にあり、当面、需給緩和が継続

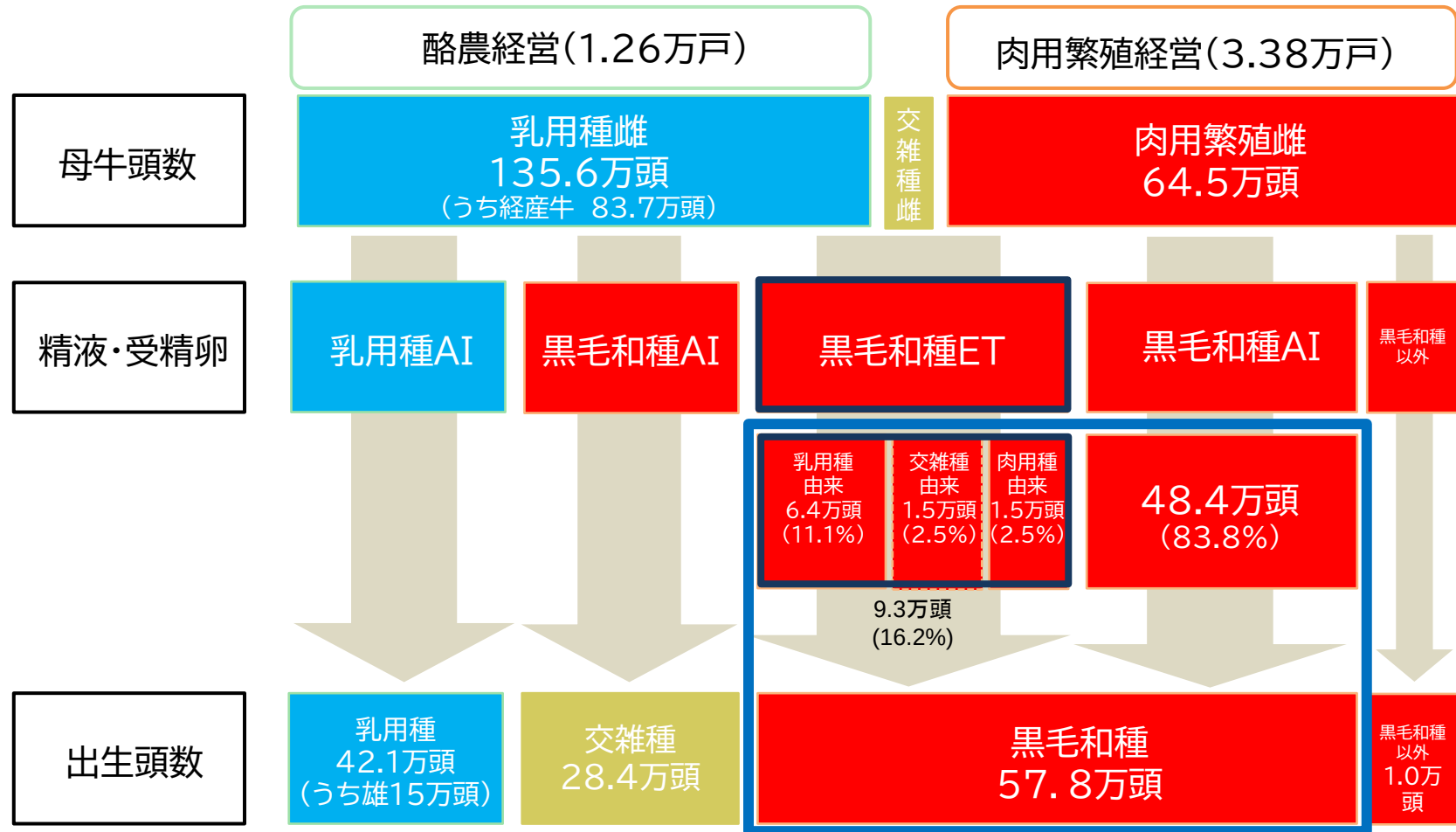


- ・人口減少局面の我が国において、国内外の需要を的確に捉え、1人当たりの国産消費を増やしつつ、輸出を拡大することで、需要に応じた牛肉の供給能力の維持を図ることが必要ではないか。
- ・当面は、和牛における需給緩和を改善するため、増頭対策の中止を継続するとともに、新規需要開拓に取り組むことが必要ではないか。

【2. 牛肉の生産基盤】

子牛の生産体制(令和4年度)

- 令和4年度の黒毛和種子牛出生頭数57.8万頭のうち、**A I 産子48.4万頭 (83.8%)**、**E T 産子9.3万頭 (16.2%)**。
- **9.3万頭のE T 産子のうち、6.4万頭 (E T 産子の69%) は酪農経営由来。**
- また、**酪農経営**は、肉用子牛として**交雑種28.4万頭**、**乳用雄15万頭**を生産。



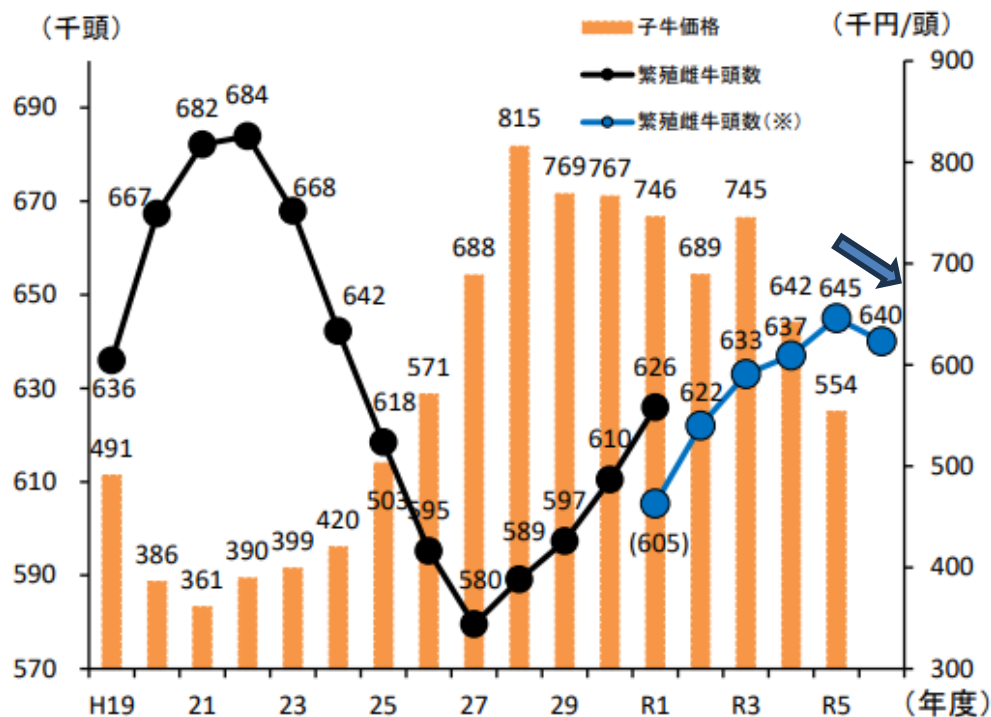
注) AI=人工授精、ET=受精卵移植

資料: “母牛頭数”農林水産省「畜産統計」(R5.2.1現在)
 “出生頭数”(独)家畜改良センター 牛個体識別全国データベース (R4年度)
 ・肉用種は、黒毛和種、褐毛和種、日本短角種、無角和種、交雑(黒毛×褐毛)、和牛間交雑種、肉専用種(非和牛)の合計
 ・乳用種は、ホルスタイン種、ジャージー種、乳用種の合計
 “うちET産子”(独)家畜改良センター調べ 黒毛和種以外のET産子は含まない
 “うち受精卵由来の黒毛和種子牛の頭数”(公社)全国和牛登録協会調べ

繁殖雌牛(動向)

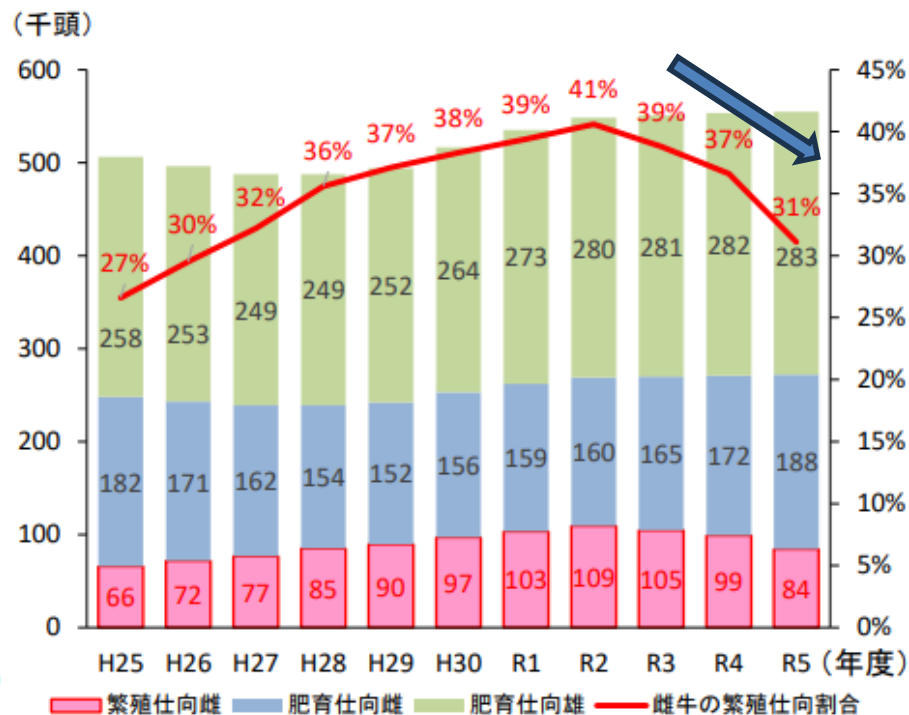
- 肉用牛繁殖雌牛の頭数は、令和4年まで増加したものの、**令和5年は64万頭と微減**。
- 雌牛の繁殖仕向け割合は、令和2年度まで上昇したが、**令和3年度以降は低下し令和5年度は31%**。
- 令和4年度以降、子牛価格の軟調な状況が続いていることから、**繁殖雌牛の減少傾向は今後も継続する可能性**。

繁殖雌牛頭数及び子牛価格の推移



資料：農林水産省「※畜産統計」、農畜産業振興機構「肉用子牛取引状況」
 ※R2年より統計手法が変更された。(R1年は変更後の統計手法による頭数を参考値として併記)
 注：繁殖雌牛頭数は、各年2月1日時点の数値。
 子牛価格は、黒毛和種(雄、雌)の年度平均価格。

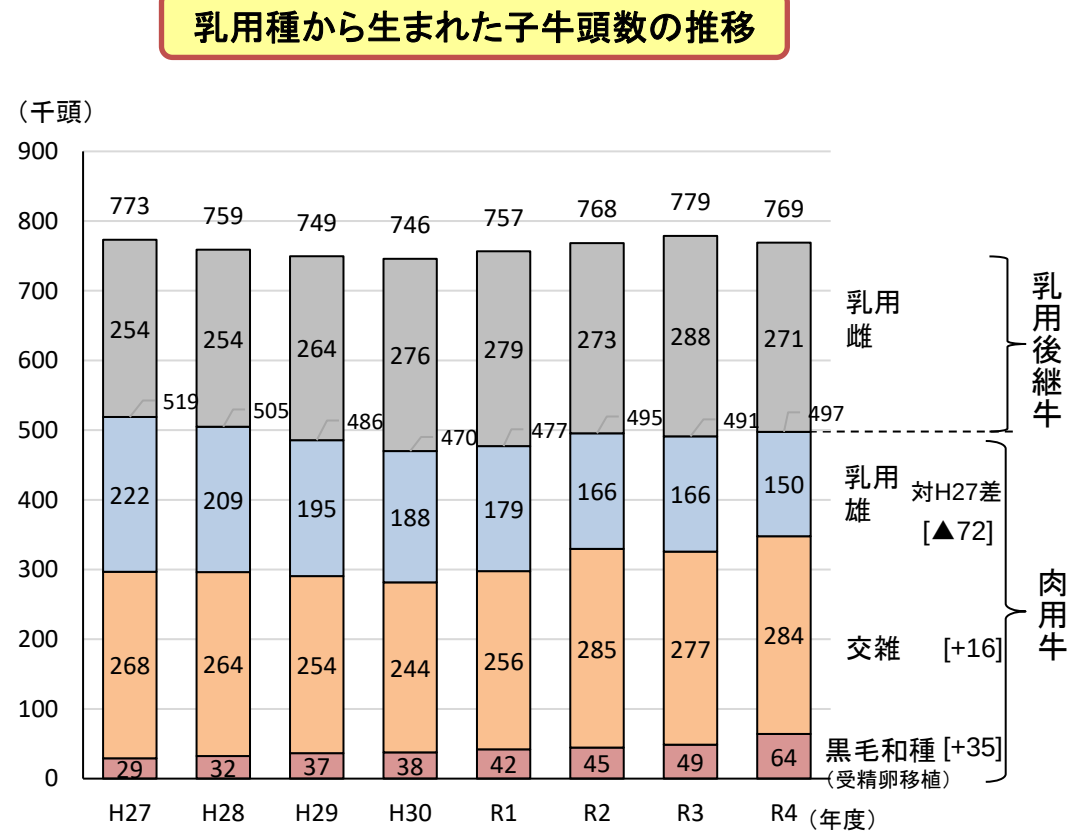
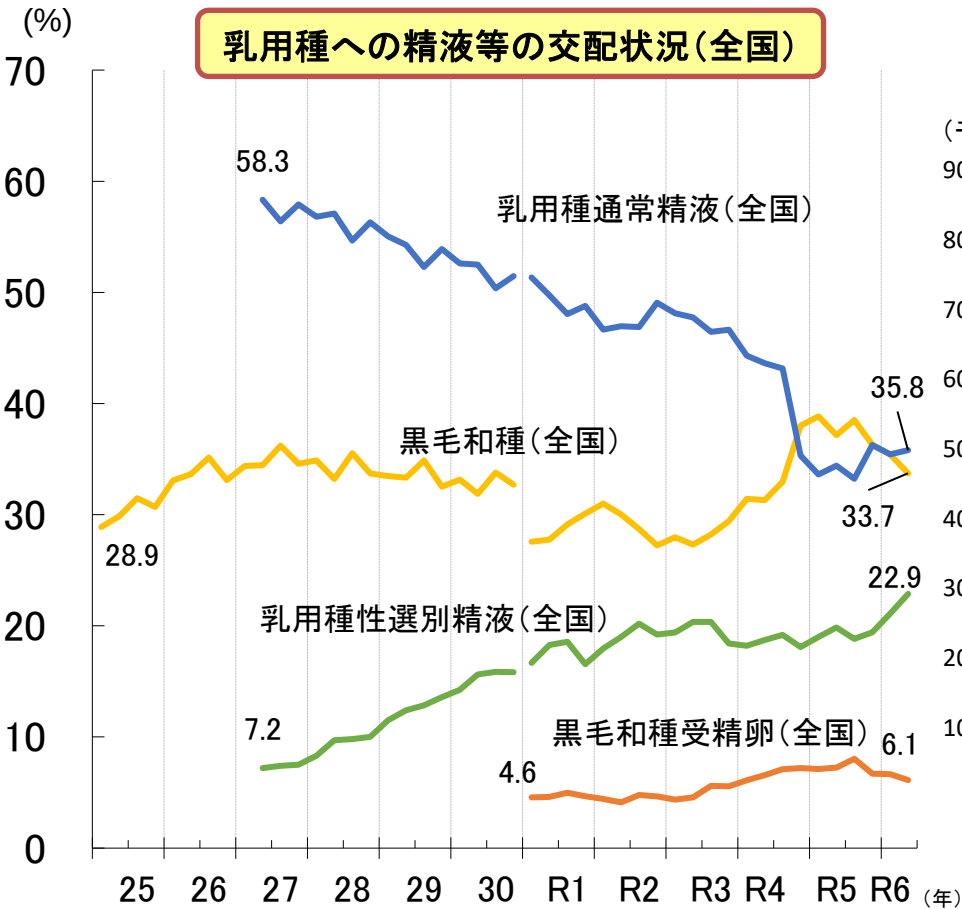
肉専用種雌の繁殖仕向け頭数・割合の推移(推計)



注1：肥育仕向け頭数は、牛マルキンで17月齢時点で肥育牛に登録された頭数
 注2：繁殖仕向け頭数は、雄・雌の出生割合が51:49として肥育仕向け頭数から同時期の雌頭数を推計し、これから肥育仕向け頭数を引いたもの
 注3：雌繁殖仕向け割合は、繁殖仕向け雌頭数を肥育仕向け雌頭数と繁殖仕向け雌頭数の合計で除したもの

酪農経営における肉用子牛の生産動向

- 酪農経営は**値頃感のある国産牛肉の供給源**として、乳用雄、交雑種の子牛を生産。
- 近年の性選別精液利用の増加により**乳用雄は減少**。
- 他方、空き腹に黒毛和種精液・受精卵の交配を選択する酪農経営が増えてきていることから、**黒毛和種、交雑種は増加**。



資料: (独)家畜改良センター「牛個体識別全国データベース」、農林水産省調べ

酪農経営由来のET和子牛の生産動向

- 酪農経営においては、①黒毛和種子牛価格の上昇、②補助事業による受精卵移植（ET）技術の普及推進、③生乳生産コストの高騰による酪農経営の悪化等を背景に、ETを活用した黒毛和種子牛の生産を年々拡大。
- 出生頭数に対する酪農経営由来の黒毛和種子牛のシェアは、平成27年度は約6%であったが、令和4年度では約11%と約2倍に拡大。

酪農のET活用を後押しした要素

①黒毛和種子牛の高騰

繁殖雌牛の減少等により子牛頭数が減少したことから、平成25年度以降、子牛価格が高騰。なお、令和4年度以降は下落傾向。

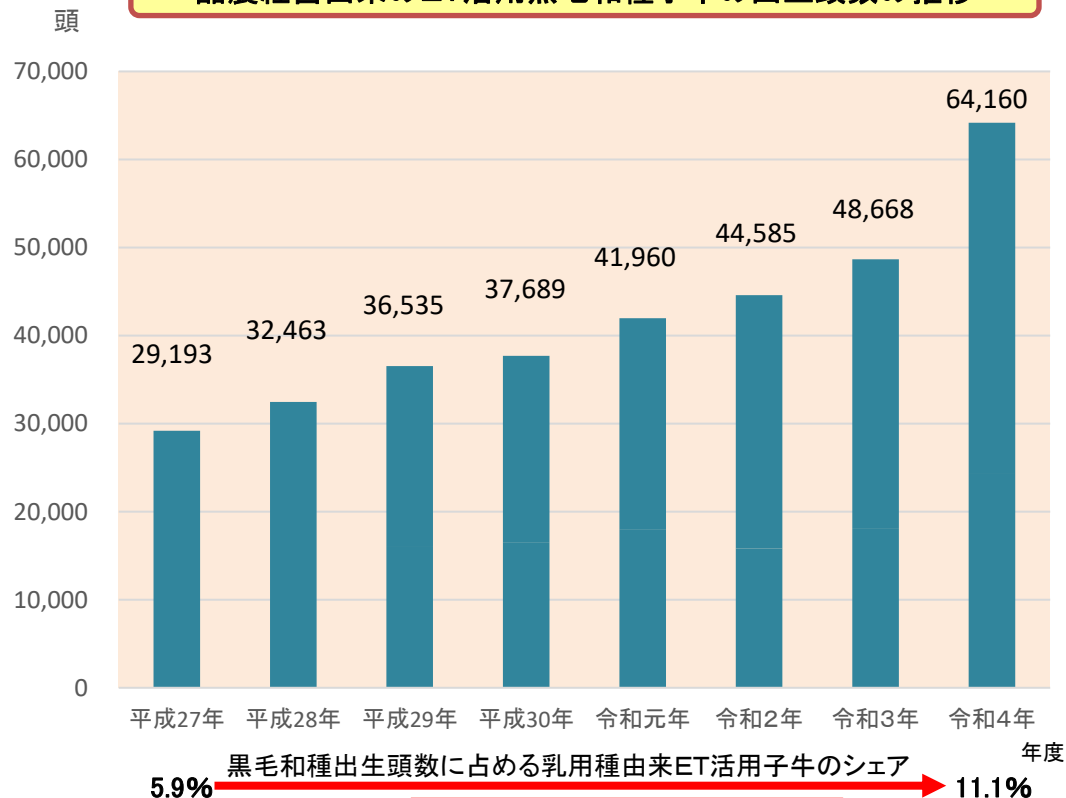
②補助金によるET技術の普及促進

TPP対策として、平成27年度補正予算から乳用種への受精卵移植への補助を開始（1頭当たり上限7万円の支援）。なお、ET技術は既に普及していることから、令和6年度から補助は行っていない。

③生乳生産コストの高騰

飼料費等の生乳生産コストが高騰する中、酪農経営改善のために収益の高い和子牛の生産が加速。

酪農経営由来のET活用黒毛和種子牛の出生頭数の推移



ET技術は既に定着

酪農経営における肉用子牛の収益性

- 酪農経営が生産する肉用子牛のうち、**黒毛和種子牛の販売価格、1頭当たり利潤が最も高い。**
- 他方、**黒毛和種子牛は他品種と比べ栄養補給等の追加コストがかかる上、販売日齢が長く労働負担が大きい状況。**
- なお、**1日当たり利潤では交雑種が最も高くなっている。**

酪農経営由来肉用子牛の収益性(北海道)

(円/頭)

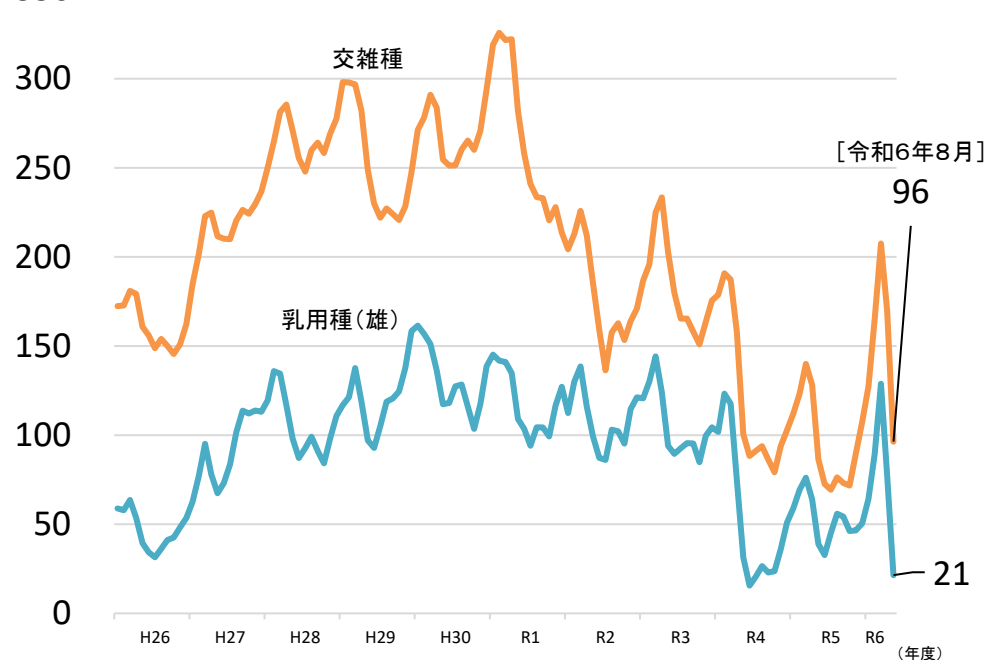
	乳用雄	交 雑	黒 毛
販売日齢	12	13	47
販売価格	49,382	88,522	319,278
生産コスト	37,445	48,519	252,017
AI・ET費	13,339	14,816	149,955
飼料費	8,853	16,581	48,180
労働費	12,899	14,352	48,119
その他	2,354	2,770	5,763
1頭当たり利潤	11,937	40,003	67,261
1日当たり利潤	995	3,077	1,431

資料:食肉鶏卵課調べ

※黒毛和種・交雑種・乳用雄の初生牛(約2カ月齢以下)を出荷(計412頭)している酪農経営3戸の平均(令和5年度)

初生牛の取引価格の推移

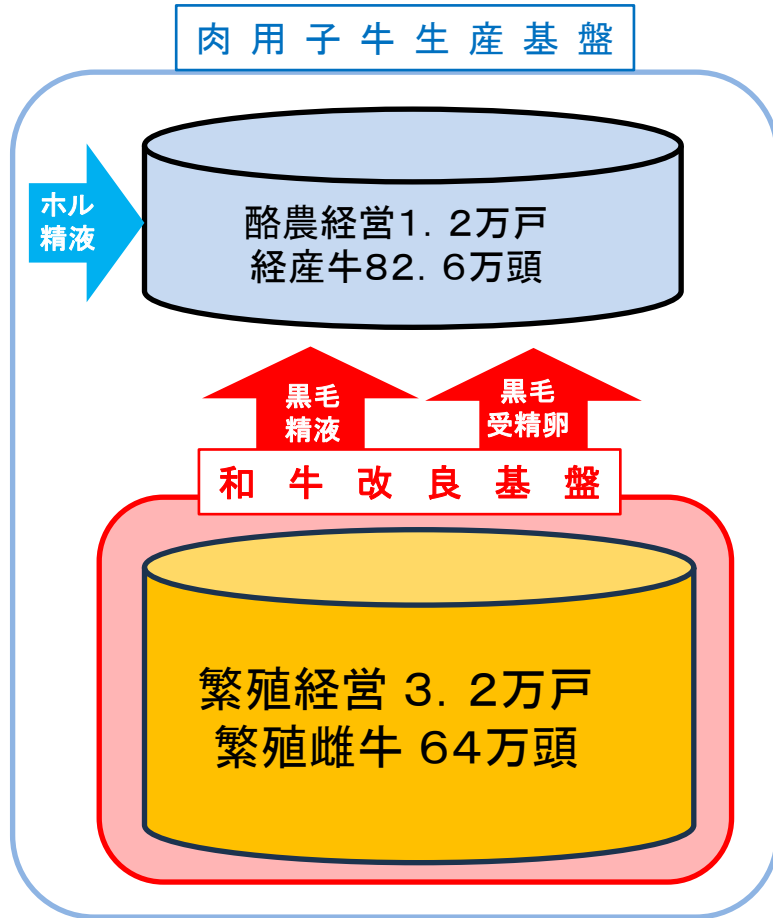
(千円/頭)



資料:(独)農畜産業振興機構「肉用子牛取引情報(月別初生牛取引状況表)」

肉用牛繁殖経営と酪農経営の関係

- 和牛の改良基盤は繁殖雌牛によって支えられており、我が国の肉用牛生産の源となるもの。
- 和牛の改良基盤を通じて、酪農経営に対し優良な精液及び受精卵を提供。



・価値感のある国産牛肉の供給源

安価な国産牛肉を求める消費者に対して、乳用雄牛肉、交雑種牛肉を提供する源

・和牛需要への柔軟な対応

将来の輸出増など需要が急激に増加した場合、繁殖農家で改良された和牛受精卵を活用した子牛の増産

・高品質な霜降り牛肉の供給源

高品質な国産牛肉を求める国内外の消費者に対して、和牛肉を提供する源

・和牛改良基盤の維持

繁殖に供される雌牛の生産や調整交配への協力、遺伝資源の多様性をもつ和牛繁殖基盤の維持

・受精卵の供給

和牛卵子のドナーとして和牛受精卵の供給